

茨城放送社長賞

ただ今、介護の勉強中

私が介護福祉士という職業を知ったのは中学二年生の時でした。それまでは、介護と医療がどう違うのか分からず、すべて看護師の資格を持っている人が行うのだと思っていました。そして、本格的に介護福祉士の資格を取ろうと思い始めたのは、高校三年生というやや遅い頃でした。

以前から、私の母が介護職についていたので度々話を聞いていました。最初は話を聞くたびに大変な仕事だと感じました。ある日母に「介護の仕事は大変じゃないの？」と聞いてみたら、母は「確かに大変だよ。徘徊は日常茶飯事で中には口の悪い利用者さんだっている。けど、その利用者さんがたまに見せてくれる笑顔や優しい言葉にホッとすると、嬉しくなるんだよ。給料は安いけど、誰よりも必要とされる仕事だよ。」と、微笑みながら言ってくれました。母は若い頃は看護師をしていたのですが、一人でも多くの高齢者に笑顔になってもらいたいとの思いで介護の世界に入ったそうです。超高齢社会になっている今、介護の

水戸総合福祉専門学校一年 十九歳



なかはし ゆい
中橋 由衣

ひたちなか市

仕事は人手不足で高齢者に対するケアが行き届かないという事実を知りました。それからはさらに、介護福祉士という仕事に興味が沸くようになりました。必要とされているのに人手不足だなんて…と考え、私でも喜んでもらえることがしたいと思いました。きつと知らず知らずのうちに母の話を聞きながら、高齢者に対する援助が大変という気持ちから、喜んでもらえるようにと気持ちが変わっていったのだと思います。

母の「誰よりも必要とされる。」という言葉を出したのをきっかけに、介護の仕事に就こうと思えました。また、様々な高齢者に満足してもらえよう援助するため、これまで以上に介護の現場に必要とされる技術や専門的知識を兼ね備えた介護福祉士になろうと、今、介護福祉の専門学校に通っています。

受賞コメント

受賞の報告を聞いてもまだ実感がありませんが、先生やクラスメイトに「おめでとう。」と言ってもらえて嬉しかったです。実習後の夏休みに書き始めました。気持ちを込めて書いて、本当に良かったです。

交付金へのコメント

制度については知りませんでしたでしたが、今回知って、自分が学校を卒業すると同時に終わってしまうのが非常に残念です。これから介護職に就こうと夢見て努力している学生にとって、是非続けてほしい制度です。